

平成28年9月11日  
今週のベストショット



奈多グラウンド 奈多クラブ 対 三苦三球会戦

無敗で首位の奈多クラブに対して粘り強く投げ、見事勝利を収めた三球会吉留投手。

写真：和白新町パイレーツ 中嶋孝志

青松園A 鮮やかな速（足）攻でホーネッツ逆転勝利！

雁ノ巣ライナーズ（4勝4敗1分）200001 2 有馬●、鳥越一山崎

三苦ホーネッツ（7勝2敗）22001× 5 矢野（義）○ー広木

HR：中口（雁ノ巣） 2BH：中口、久保田（雁ノ巣） 盗塁：明瀬旭（雁ノ巣）

雁ノ巣ライナーズは、初回先頭の明瀬旭選手が三苦ホーネッツ先発矢野（義）投手から四球を選ぶと、盗塁で一死二塁として三番中口選手が初球を右越え2ランで先制する。一方ライナーズ先発有馬投手は先頭から二連続三振を奪うも二死から連続四球とショート野選で満塁とされる。ここで昨日登録されたばかりの矢野（雅）選手が初打席初安打をセカンド後方に放ちあっさり同点。二回以降立ち直ったホーネッツ矢野（義）投手は尻上がりに調子を上げていく。二回裏ホーネッツは八番永島選手が中前打で出塁すると九番塚（恭）、一番正内選手の連続バントをライナーズ池内二塁手が連続エラーで1点、二番稲葉選手の犠飛でもう1点追加。四回裏ライナーズは二番手鳥越投手にスイッチ。五回裏ホーネッツは代打隈崎選手の犠飛で貴重な追加点。六回表ライナーズは、三番中口選手の二塁打を五番久保田選手が二塁打で返し2点差。続く六番国崎選手の三遊間の当たりを稲葉三塁手が横っ飛びで好捕すると、続く打者も打ち取りゲームセット。点を取られてもすぐに取り返すあたりは、さすが昨年覇者。しかしその裏にはバントや隙を突いて次の塁に進む抜け目ない走塁など現実なプレーに裏打ちされた自信と余裕があった。またどちらもベンチからしっかり声が出て、チーム一丸な両チームだった。

（記事：レッドサンデー 八島久徳、写真：前田篤史）





9奪三振完投勝利のホーネッツ矢野（義）投手。



一回表、先制の2ランHRを放ったライナース中口選手。



雁ノ巣ライナース有馬投手、連続三振を奪ったが・・・。



初打席初安打2打点を挙げたホーネッツ矢野（雅）選手。



二回裏、早くも円陣を組んで逆転を狙うホーネッツベンチ。



逆転の口火を切った「ミスター」こと永島選手。



バント攻撃を仕掛けるホーネッツ九番塚（恭）選手。



連続バントで相手ミスを誘う一番正内選手。





相手ミスに乗じて好走塁のホームインする永島選手。



ホーネットツ二番稲葉選手の犠飛でこの回2点目。



果敢に二塁へヘッドスライディングする明瀬旭選手。



五回裏、代打で貴重な犠飛を放つホーネットツ隈崎選手。



六回表、右中間へ二塁打のライナーズ中口選手。



意地の二塁打を放つライナーズ五番久保田選手。



写りたがりホーネットツ堺巖生選手の喜びの表現。ベンチでも元気。



## 奈多グラウンド まさかの…。

奈多クラブ（7勝1敗1分） 3 0 0 0 0 3 今林（瑠）●—安河内

三苦三球会（4勝6敗） 0 0 3 1× 4 吉留○—藤澤

HR：大津（三球会） 3BH：原口（三球会） 2BH：馬場口（奈多ク）

ここまで7勝0敗1分けと好調の奈多クラブは、チームの勢いそのままに初回から鋭い攻撃を見せる。一番今林祐将選手の四球、盗塁を足掛かりに二、三番の連続安打で先制すると、四番馬場口選手が右中間二塁打を打ち、三球会吉留投手の立ち上がりを捉え3得点の見事な攻撃を見せる。一方の三球会は、奈多クラブ先発今林瑠生投手の前に一回裏は三者凡退うち2三振を喫してしまう。抜群の球威を誇る今林瑠生投手の前に三球会の苦戦が予想されたが、二回裏に変化が訪れた。三球会は簡単に二死を取られたものの、連続四球に内野安打で満塁のチャンスを迎える。しかし惜しくもこの回は得点を挙げる事が出来なかったが、今林瑠生投手には疲労が垣間見え、明らかに流れが三球会に傾いた。続く三回裏、三球会先頭の原口選手が三塁打を放つと、二番藤澤選手も内野安打で続き、三番大津選手が左翼越えの3ランを放つ。更に四回裏には4四死球にWPで4点目をもぎ取った。奈多クラブも必死で反撃するものの、一度手放した流れを取り戻すことが出来ない。初回こそ失点したが、その後は吉留投手を中心に三球会が守り勝ち、奈多クラブには無念の今季初黒星となった。

（記事：塩浜ジャガーズ 高嶺信彦、写真：竹尾純）



大黒柱の投球術！三球会の吉留投手。



奈多クラブエース 今林瑠生投手。



先制点に沸く奈多クラブベンチ。



2安打を放った奈多クラブ四番馬場口選手。





三回裏、同点本塁打を放った三球会三番の大津選手。



三塁打を放った原口選手(左)とHRの大津選手(右)。

### 雁レク7 砂場投手の力投により、奈多サンデーズ完封勝利！

三友クラブ (5勝4敗) 0 0 0 0 0 0 足立●ー谷崎

奈多サンデーズ (7勝2敗1分) 2 0 1 6 × 9 砂場○ー長浜

HR：江口 (奈多サ) 盗塁：野田 (奈多サ)

一回表、好調三友クラブの攻撃を奈多サンデーズ先発の砂場投手がランナーを出しながらも0点に抑える。その裏のサンデーズの攻撃、先頭の宮口選手がセンター前ヒットで出塁。二番砂場選手が進塁打を試みるもショートゴロで一塁ランナー宮口選手がフォースアウト。ランナーを一塁に残し三番長濱選手はサードゴロで幸いにも併殺打は免れた。しかしここで四番江口選手がレフトへ2ランHRを放ち、サンデーズが幸先よく先制。その後も二死一二塁までいったもののこの回2点止まり。二回の攻撃は共に0点。迎えた三回表、三友クラブは、二死から二番広瀬選手がチーム初ヒットを放つも後続が倒れ得点ならず。三回裏サンデーズは、先頭長濱選手と四番江口選手の四球で無死一二塁のチャンス。ここで五番鳥羽選手は三友クラブ先発足立投手が三振で抑えるも、WPで一死二三塁。ここで六番野田選手が中前適時打で追加点。ダメ押しと行きたいとこだが足立投手が連続三振を取り、何とか1失点で抑える。点を返したい三友クラブ打線だが、サンデーズ砂場投手の前になかなかチャンスを作れない。迎えた四回裏、先頭の一番宮口選手が出塁、続く二番砂場選手がショートへの内野安打。ここから三番長濱選手、四番江口選手の連続適時打で2点を追加。その後も六番野田選手、八番守選手、九番田中選手の適時打によりこの回一挙6得点。反撃に出たい三友クラブも五回表、一死から大坪選手が塁に出るも、後続の打者が砂場投手に抑えられた。チャンスを確実に生かし、砂場投手主体の守備力で、奈多サンデーズの完封勝ちとなった。(記事・写真：和白新町パイレーツ 中嶋孝志)



先制本塁打の江口選手を迎えるサンデーズベンチ。



絶妙なコントロールを駆使する足立投手だったが・・・



際どいタイミング!?



捕れるのかあ〜!? 安永選手。



完封勝利の立役者、奈多サンデー砂場投手。

### 青松園B 両者決め手がなく無念のドロ〜

ソルトベスターズ (0勝9敗1分)	0000000	0	酒井△-春田
奈多フェニックス (6勝1敗2分)	0000000	0	今林(勇)△、松本-松本・今林(勇)

**2BH** : 太田 (奈多ク) **盗塁** : 中村 (健) (ソルト)

一回表ソルトベスターズの攻撃は、先頭の中村(健)選手が相手の失策で出塁し、すかさず盗塁も決めていきなりチャンスを作るも、一死後三番真弓選手の二塁ライナーに飛び出してしまい併殺となり無得点。対する奈多フェニックスは、先頭の今林(勇)選手、三番今林(英)選手が制球の定まらないソルト酒井投手から四球を選び、こちらもチャンスを作るも期待の四番安藤選手が二塁併殺となり、こちらも無得点。ここから試合は淡々と進み、三回裏のフェニックスは2四球を選ぶも無得点。四回表ソルトは一死後に二番八柄選手が中前へチーム初安打を放つも後続が倒れて無得点。五回裏フェニックスは二死から九番太田選手が左中間へ二塁打を打ちこちらもチーム初安打となるも無得点。六回表ソルトは先頭の八番森選手が右前打で出塁し、二死後二番八柄選手がこの日2本目の安打を左前へ運び一三塁のチャンスを作ったが、後続が続けず無得点。六回七回フェニックスの攻撃は共に先頭打者が四球を選び出塁するも後続が続けず無得点で試合終了となり引き分け。まずソルトとしては三塁手の真弓選手の好守を中心にしっかり守り酒井投手を盛り上げた事が相手は無得点に抑えて今年初の勝ち点獲得に繋がった試合だった。対するフェニックスは今林(勇)・松本両投手が14奪三振を奪う圧巻の投手リレーで無失点に抑えて負けなかった事は大きい、対照的に攻撃面は最初から最後まで淡白な攻めをしていた印象だった。

(記事 : 新町ウインズ 野中一史、写真 : 早田主大)





先発した奈多フェニックス今林勇太投手。



ソルトベスターズ先頭打者、中村健一選手。



一回裏、三本間に挟まれた今林勇太選手。



好守備を見せたソルト真弓選手の打席。



ライズボールに手が出てしまう春田選手。



フェニックス二番手の松本投手。



チーム唯一の安打を放ったフェニックス九番太田選手。



キャッチャーフライを捕球するソルト春田捕手。





打席を待つソルト中村耕一郎選手。



試合後、充実した表情を見せるソルト酒井投手。

T・N	一	二	三	四	五	六	七	計
ソルト	○	○	○	○	○	○	○	
ベイズターズ	○	○	○	○	○	○	○	
フェニックス	○	○	○	○	○	○	○	

珍しい！七回0-0のスコアボード。

## 第17週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

第17週、9月11日は4試合が行われました。

青松園Aの雁ノ巣ライナーズ対三苦ホーネッツ戦は、初回にライナーズ中口選手の2ランで先制したのも束の間、その裏二死から連続四球からチャンスを得たホーネッツが新人の六番矢野（雅）選手の2点タイムリーを放つと、二回裏にもヒットの永島選手を2本のバントで進めると、これがオールセーフで2点を追加すると、五回裏にもノーヒットで1点を追加すると、ライナーズの反撃を1点に抑え、3-5でホーネッツの勝利。ホーネッツ稲葉三壘手のユニフォームが破れるほどのハッスルプレーの数々がホーネッツの逆転を呼び込む起爆剤となった。

奈多グラウンドの奈多クラブ対三苦三球会戦は、初回四番馬場口選手の二壘打等で3点を先制した奈多クラブだったが、二回以降三球会の吉留投手にほぼ完全に抑え込まれる。三回裏三球会は、三番大津選手の3ランで一気に追いつくと、四回裏にコントロールを乱した今林瑠生投手の4四死球で逆転し3-4で三球会の勝利。遂に無敗の奈多クラブに土がついた。

雁レク7の三友クラブ対奈多サンデーズ戦は、初回から四番江口選手の2ランで先制すると、三回に1点。四回裏に6安打で6点取ったサンデーズ。投げてはサンデーズ砂場投手が2安打完封で9-0でサンデーズの勝利。

青松園Bのソルトベイズターズ対奈多フェニックス戦は、首位奈多クラブを追う2位のフェニックスが一気に差を縮めるチャンスな試合。だが、蓋を開けてみると、全敗のソルトベイズターズ酒井投手の前に四球でランナ



一は出すものの凡打の山。五回に九番太田選手がはなった二塁打一本に抑え込まれる結果に。一方ソルトは3安打を放ったものの、フェニックス今林勇太投手の前に13三振を喫し無得点。結果0-0のフェニックスにとっては痛すぎる引き分け。

「Go! Do! 飲み会2016」で盛り上がった翌日の試合というのが関係したのかしていないのか、首位奈多クラブが逆転負けして、2位フェニックスが全敗のソルトに引き分けるといった波乱が起きた。

ちょうどフェニックスの運営委員西藤選手が、「どこか首位の奈多クラブを止めて下さい」といった言葉が現実になったものの、フェニックスも負けに等しい（勝利は勝ち点3、引き分けは勝ち点1）引き分けで奈多クラブの優位は変わらない。

直接対決で引き分けている両チーム。これで上位チームの優勝争いも混沌としてきたので、今後の戦いが大切だ。